

# 定期作況報告

平成23年11月  
(11月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

# 1. 気象経過

## 1) 融雪期以降の経過

**4月：**上旬の平均気温は平年より極めて高く、中旬はやや低く、下旬は平年並であった。4月の月平均気温は4.7℃で平年よりやや高かった(+0.6℃)。上旬の降水量は平年より少なく、中旬は平年並で、下旬は平年より極めて多く、月合計は67.0mmで多かった。上旬の日照時間は平年より多く、中旬はやや少なく、下旬は平年並で、月合計は167.1時間で平年並であった。

**5月：**上旬の平均気温は平年より極めて低く、中旬は低く、下旬はやや低かった。5月の月平均気温は8.3℃で平年より低かった(-2.0℃)。上旬の降水量は平年並で、中旬は平年より多く、下旬は少なく、月合計は51.5mmで平年並であった。上旬の日照時間は平年よりやや少なく、中旬は平年並で、下旬は平年よりやや多く、月合計は158.1時間で平年並であった。

**6月：**上旬の平均気温は平年並で、中旬は平年よりやや低く、下旬は平年並であった。6月の月平均気温は15.1℃で平年並であった(-0.3℃)。降水量は各旬とも平年より多く、月合計は102.5mmで平年より多かった。上旬の日照時間は平年よりやや多く、中旬はやや少なく、下旬は平年並で、月合計は148.1時間で平年並であった。

**7月：**上旬の平均気温は平年より極めて高く、中旬は平年並で、下旬は平年よりやや高かった。7月の月平均気温は19.4℃で平年より高かった(+1.6℃)。上旬の降水量は平年並で、中旬は平年より極めて多く、下旬は少なく、月合計は123.5mmで平年並であった。上旬の日照時間は平年よりやや多く、中旬は平年並で、下旬は平年よりやや多く、月合計は160.4時間で平年よりやや多かった。

**8月：**上旬の平均気温は平年より高く、中・下旬はやや高かった。8月の月平均気温は20.7℃で平年よりやや高かった(+1.2℃)。上旬の降水量は平年並で、中旬は平年より極めて多く、下旬はやや少なく、月合計は174.0mmで平年よりやや多かった。上旬の日照時間は平年より多く、中旬は平年並で、下旬は平年よりやや多く、月合計は189.4時間で平年よりやや多かった。

**9月：**上旬の平均気温は平年より極めて高く、中・下旬はやや高かった。9月の月平均気温は16.9℃で平年より高かった(+1.8℃)。上旬の降水量は平年より極めて多く、中旬はやや少なく、下旬は極めて多く、月合計は247.5mmで平年より極めて多かった。上・中旬の日照時間は平年よりやや少なく、下旬は平年並で、月合計は132.5時間で平年並であった。

**10月：**上旬の平均気温は平年より低く、中旬は平年並で、下旬は平年より高かった。10月の月平均気温は8.7℃で平年並であった(+0.1℃)。上・中旬の降水量は平年より少なく、下旬は多く、月合計は56.0mmで平年よりやや少なかった。上・中旬の日照時間は平年よりやや多く、下旬は平年並で、月合計は177.7時間で平年並であった。

**11月：**上旬の平均気温は平年並で、中旬は平年より高かった。中旬までの平均気温は3.7℃で平年よりやや高かった(+0.8℃)。上・中旬の降水量は平年より少なく、中旬までの合計は4.0mmで平年より少なかった。上・中旬の日照時間は平年並で、中旬までの合計は94.4時間で平年並であった。

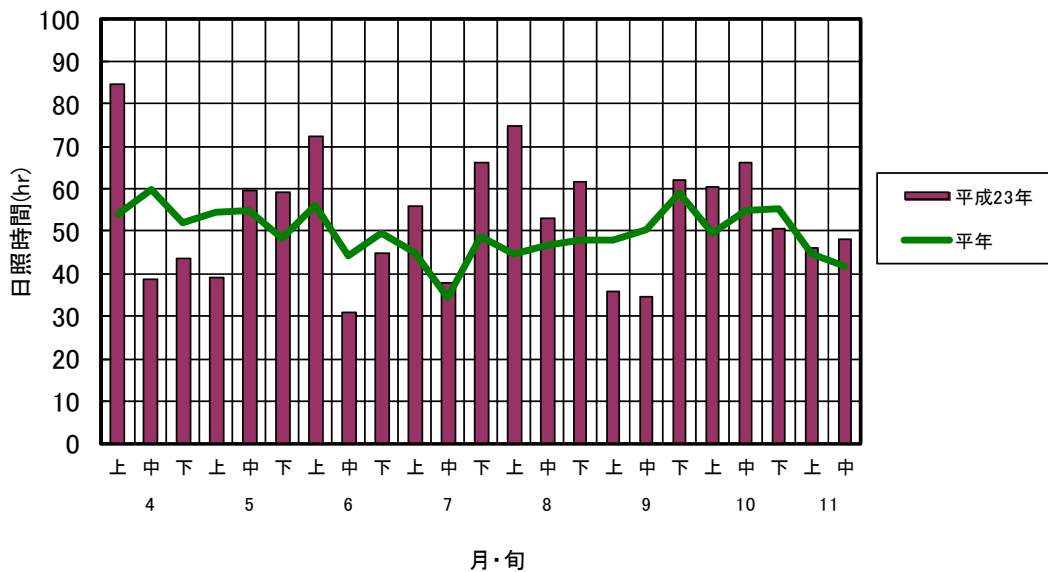
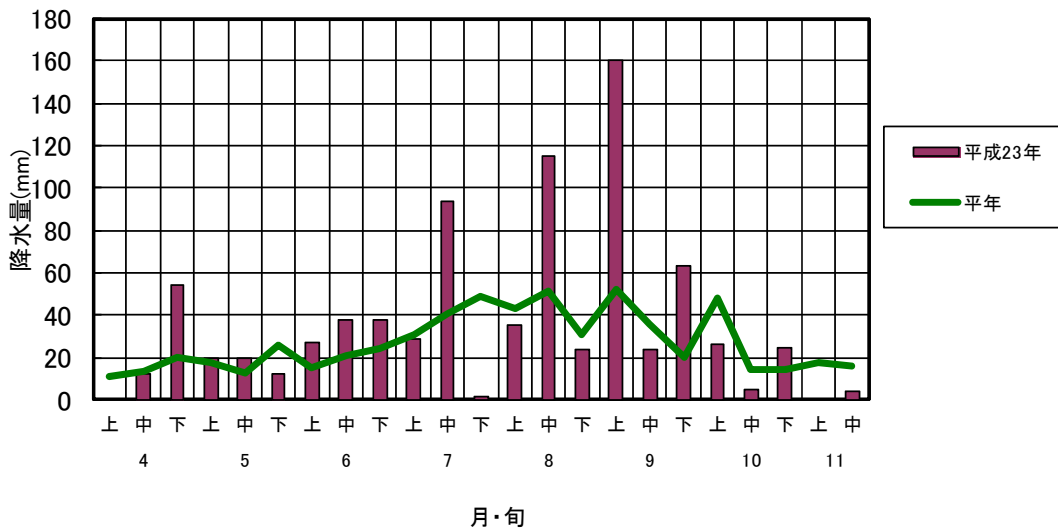
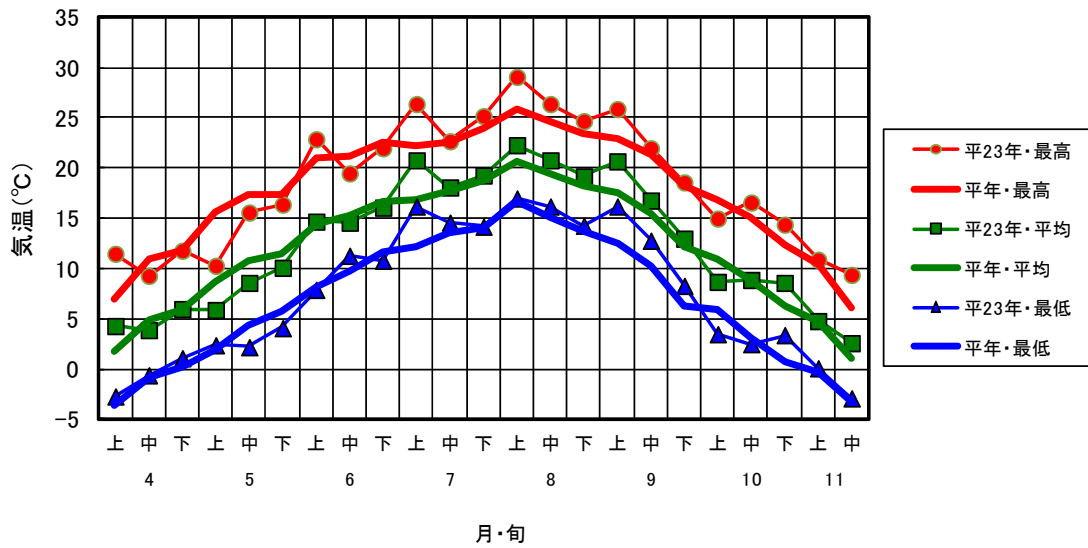
農耕期間中(5月～9月)の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

**気温：**5月は平年より低く、6月は平年並で、7月は高く、8月はやや高く、9月は高かった。この期間の日平均気温の積算値は2458.0℃で平年より高かった(平年対比+68.8℃)。

**降水量：**5月は平年並で、6月は多く、7月は平年並で、8月はやや多く、9月は極めて多かった。この期間の降水量の積算は699.0mmで平年より極めて多かった(平年対比+229.3mm、149%)。

**日照時間：**5月・6月は平年並で、7月・8月はやや多く、9月は平年並であった。この期間の日照時間の積算は788.5時間で平年より多かった(平年対比+56.4時間、108%)。

## 2) 気温、降水量及び日照時間の平年との比較



### 3) 気象表

月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			降水量(mm)			日照時間(hr)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
4	上	4.3	1.7	2.6	11.5	6.9	4.6	-2.7	-3.7	1.0	0.0	11.4	△11.4	84.7	54.0	30.7
	中	3.9	4.8	△0.9	9.3	11.0	△1.7	-0.6	-0.9	0.3	12.5	13.7	△1.2	38.8	59.9	△21.1
	下	6.0	5.9	0.1	11.8	11.9	△0.1	1.1	0.2	0.9	54.5	19.9	34.6	43.6	51.9	△8.3
5	上	5.9	8.7	△2.8	10.3	15.6	△5.3	2.4	2.0	0.4	20.0	17.3	2.7	39.2	54.4	△15.2
	中	8.6	10.7	△2.1	15.6	17.4	△1.8	2.2	4.3	△2.1	19.5	13.0	6.5	59.6	55.1	4.5
	下	10.1	11.4	△1.3	16.4	17.4	△1.0	4.1	5.8	△1.7	12.0	25.5	△13.5	59.3	48.3	11.0
6	上	14.7	14.4	0.3	22.9	21.0	1.9	7.9	8.2	△0.3	27.5	15.0	12.5	72.4	56.1	16.3
	中	14.6	15.2	△0.6	19.5	21.1	△1.6	11.3	9.8	1.5	37.5	20.9	16.6	30.7	44.2	△13.5
	下	16.1	16.6	△0.5	22.0	22.6	△0.6	10.8	11.6	△0.8	37.5	24.2	13.3	45.0	49.6	△4.6
7	上	20.8	16.9	3.9	26.4	22.2	4.2	16.2	12.2	4.0	28.5	30.9	△2.4	56.1	45.0	11.1
	中	18.1	17.7	0.4	22.7	22.6	0.1	14.6	13.5	1.1	93.5	40.7	52.8	38.0	34.5	3.5
	下	19.3	18.7	0.6	25.2	24.0	1.2	14.2	14.1	0.1	1.5	49.3	△47.8	66.3	48.6	17.7
8	上	22.3	20.7	1.6	29.1	25.9	3.2	17.0	16.6	0.4	35.5	43.2	△7.7	74.7	44.8	29.9
	中	20.8	19.5	1.3	26.4	24.6	1.8	16.2	15.1	1.1	115.0	51.0	64.0	52.9	46.6	6.3
	下	19.2	18.3	0.9	24.7	23.4	1.3	14.3	13.7	0.6	23.5	30.9	△7.4	61.8	47.8	14.0
9	上	20.7	17.6	3.1	25.9	22.9	3.0	16.2	12.5	3.7	160.5	52.2	108.3	36.0	47.8	△11.8
	中	16.8	15.5	1.3	22.0	21.3	0.7	12.8	10.2	2.6	24.0	35.5	△11.5	34.5	50.3	△15.8
	下	13.0	12.2	0.8	18.6	18.3	0.3	8.3	6.3	2.0	63.0	20.5	42.5	62.0	59.0	3.0
10	上	8.7	11.0	△2.3	15.0	16.9	△1.9	3.5	5.9	△2.4	26.5	48.0	△21.5	60.5	49.6	10.9
	中	8.9	8.9	0.0	16.6	15.1	1.5	2.5	3.2	△0.7	5.0	14.0	△9.0	66.4	55.0	11.4
	下	8.6	6.3	2.3	14.4	12.3	2.1	3.4	0.8	2.6	24.5	14.3	10.2	50.8	55.3	△4.5
11	上	4.8	4.7	0.1	10.9	10.4	0.5	0.1	-0.4	0.5	0.0	17.8	△17.8	46.2	44.5	1.7
	中	2.6	1.0	1.6	9.4	6.1	3.3	-2.9	-3.3	0.4	4.0	16.0	△12.0	48.2	41.9	6.3

注) 観測値は気象庁ホームページの気象統計情報で公開している置戸町境野のアメダスによる。  
 観測統計の解説は<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/kaisetu/index.html>を参照。  
 本年の値は確定前の速報値を含む。平年値は前10か年の平均値である。

### 4) 季節表

項目 年次	前年 根雪始 月日	融雪 期 月日	根雪 期間 日数	耕鋤 始 月日	降雪 終 月日	晩霜 月日	初霜 月日	無霜 期間 日数	降雪 始 月日	農耕期間の積算(5~9月)		
										平均気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
本年	H22年 12. 7	4. 7	122	5. 6	5. 2	5.24	10. 2	130	11.15	2458.0	699.0	788.5
平年	12. 4	4.10	128	4.27	5. 2	5.12	10.10	150	10.31	2389.2	469.7	732.1
比較	3	△3	△6	9	0	12	△8	△20	15	68.8	229.3	56.4

注) 農耕期間の積算は置戸町境野のアメダス観測値により、それ以外は北見農試観測値である。  
 平年値は前10か年データの平均値である。

## 2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

### 1) 秋まき小麦（平成22年9月播種） 作況：平年並

事由：播種は平年より1日早い9月16日に行った。出芽期は平年より1日早く出芽は良好であった。越冬前の草丈は平年より高く、茎数は平年並であった。根雪期間は平年より6日短く、雪腐病の発生はごく軽微であった。

融雪期以降、4月上旬の平均気温が極めて高く、その後も概ね平年並みに推移したことから、越冬後の生育は、草丈がやや高く、茎数がやや多く推移した。5月は低温傾向が続き、生育はやや停滞した。6月に入り平均気温は概ね平年並となり、「ホクシン」の出穂期は平年より1日遅い6月10日であった。出穂期以降は概ね平年並の気象経過であったが、7月上旬に極めて高温、7月中旬に極めて多雨の期間があり、登熟環境としては好ましい条件ではなかった。稈長・穂長は平年よりやや長く、穂数は多かった。成熟期は平年並の7月24日であった。子実重は平年比107%と多かったが、リットル重ならびに千粒重は平年を下回り、検査等級も平年を下回る2等であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目		ホクシン			きたほなみ(参考)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(平成22年月.日)	9.16	9.17	△1	9.16	9.16	0
出芽期	(平成22年月.日)	9.24	9.25	△1	9.24	9.24	0
出穂期	(平成23年月.日)	6.10	6.9	1	6.11	6.12	△1
成熟期	(平成23年月.日)	7.24	7.24	0	7.27	7.28	△1
草丈(cm)	(平成22年11月20日)	24.5	17.3	7.2	24.5	18.7	5.8
	(平成23年5月20日)	43.1	39.1	4.0	38.8	35.4	3.4
	(平成23年6月20日)	91.7	91.0	0.7	88.5	88.8	△0.3
茎数(本/m <sup>2</sup> )	(平成22年11月20日)	1669	1661	8	1621	1684	△63
	(平成23年5月20日)	1553	1360	193	1664	1543	121
	(平成23年6月20日)	929	741	188	920	779	141
稈長(cm)	(成熟期)	90	85	5	88	85	3
穂長(cm)	(成熟期)	9.2	8.3	0.9	9.1	8.5	0.6
穂数(本/m <sup>2</sup> )	(成熟期)	863	709	154	916	738	178
子実重(kg/10a)		600	560	40	696	696	0
同上平年比(%)		107	100	7	100	100	0
リットル重(g)		779	792	△13	780	804	△24
千粒重(g)		35.3	36.2	△0.9	33.5	36.6	△3.1
品質(検査等級)		2	1	—	2	2	—

注1) 「ホクシン」の平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、18年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 「きたほなみ(参考)」の平年値は前6か年の平均。

2) 秋まき小麦（平成23年9月播種） 作 況：平年並

事 由：播種は平年より1日早い9月15日に行った。出芽期は平年より2日遅い9月26日であった。種子の休眠が深く、出芽はややばらついた。出芽期以降、9月下旬は降水量が極めて多く、10月上旬は平均気温が平年より低かった。10月中旬以降の気温は平年並～高く推移したが、生育は停滞気味である。越冬前の草丈は平年より低く、茎数も平年より少ないが、越冬に必要な生育量は確保できている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
播種期 (平成23年月. 日)	9. 15	9. 16	△1
出芽期 (平成23年月. 日)	9. 26	9. 24	2
草丈(cm) (平成23年11月20日)	16. 1	19. 4	△3. 3
茎数(本/㎡) (平成23年11月20日)	1139	1649	△510

注) 「きたほなみ」の平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、19年(最凶)を除く5か年の平均。

### 3) 春まき小麦 作 況 : 平年並

事 由 : 融雪期は平年より3日早い4月7日で、播種期は平年より2日早い4月18日であった。播種後、気温は平年並に推移し、出芽期は平年より1日早かった。出芽後、5月上旬から低温が続いたことから、5月の草丈、茎数は平年をやや下回った。5月下旬から6月中旬までは、気温はやや低かったが、日照時間が平年並に確保されたことから、6月の草丈、茎数は平年並となり、出穂期は平年より3日遅かった。6月下旬以降の気温はやや高く推移し、稈長は平年よりやや長く、穂長は平年並、穂数は平年よりやや多かった。成熟期は平年並となり、登熟期間は平年より3日短くなった。また、*Microdochium nivale*による葉枯れ症状が散見された。子実重は「春よ恋」で平年比99%、リットル重は平年をやや下回り、千粒重、検査等級は平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目	春よ恋			ハルユタカ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	4.18	4.20	△ 2	4.18	4.20	△ 2	
出芽期 (月.日)	5.4	5.5	△ 1	5.4	5.5	△ 1	
出穂期 (月.日)	6.27	6.24	3	6.27	6.24	3	
成熟期 (月.日)	8.7	8.7	0	8.8	8.8	0	
草丈(cm)	(5月20日)	12.6	15.2	△ 2.5	11.8	14.7	△ 2.9
	(6月20日)	67.7	69.1	△ 1.4	65.8	67.0	△ 1.2
茎数(本/m <sup>2</sup> )	(5月20日)	328	386	△ 59	332	382	△ 50
	(6月20日)	832	815	17	795	808	△ 13
稈長(cm)	(7月20日)	96	89	7	86	83	3
穂長(cm)	(7月20日)	7.8	8.2	△ 0.4	7.8	8.1	△ 0.3
穂数(本/m <sup>2</sup> )	(7月20日)	634	555	79	606	543	63
子実重(kg/10a)		452	457	△ 5	375	420	△ 45
同上平年比 (%)		99	100	△ 1	89	100	△ 11
リットル重 (g)		778	805	△ 28	766	807	△ 41
千粒重 (g)		40.9	40.0	0.9	37.9	38.7	△ 0.8
品質 (検査等級)		1	1	-	2	2	-

注) 平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

## 4) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : 良

事 由 : 播種期は平年と同じ5月17日で、出芽期は平年より1日遅い5月31日であった。出芽後は6月中旬の気温が平年より低く推移したものの、6月20日の草丈と葉数は平年並であった。7月上旬の気温が平年より極めて高かったことから、7月20日の草丈は平年より高かった。また、開花期は平年と同日で、抽糸期は平年より2日早い8月1日であった。8月から9月にかけて全般に高温傾向で推移したため、8月20日の葉数は平年並であったが、草丈は平年を上回り、9月20日の稈長も平年を31cm上回った。収穫期は平年より5日遅い9月26日であった。収穫時の子実の熟度は黄熟初～中期と平年並で、総体の乾物率は平年並であった。乾物茎葉重は平年よりやや多く、乾物雌穂重は平年より多く、乾物総重ならびに推定TDN収量は、それぞれ平年対比110%、111%といずれも平年を上回った。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目	チベリウス			
	本年	平年	比較	
播種期 (月. 日)	5. 17	5. 17	0	
出芽期 (月. 日)	5. 31	5. 30	1	
開花期 (月. 日)	8. 3	8. 3	0	
抽糸期 (月. 日)	8. 1	8. 3	△2	
収穫期 (月. 日)	9. 26	9. 21	5	
収穫期の熟度	黄熟初～中期	黄熟初～中期		
草丈(cm)	(6月20日)	32. 2	31. 2	1. 0
	(7月20日)	183. 1	166. 0	17. 1
	(8月20日)	332. 6	297. 4	35. 2
稈長(cm)	(9月20日)	297	266	31
葉数(枚)	(6月20日)	4. 7	4. 7	0. 0
	(7月20日)	12. 7	12. 2	0. 5
	(8月20日)	14. 8	14. 9	△0. 1
生総重(kg/10a)	6957	6576	381	
乾物茎葉重(kg/10a)	971	925	46	
乾物雌穂重(kg/10a)	1142	998	144	
乾物総重(kg/10a)	2113	1923	190	
同上平年比 (%)	110	100	10	
推定TDN収量(kg/10a)	1536	1387	149	
同上平年比 (%)	111	100	11	
総体の乾物率 (%)	30. 4	29. 4	1. 0	
乾雌穂重割合 (%)	54. 1	52. 0	2. 1	
有効雌穂割合 (%)	100. 0	100. 0	0. 0	

注1) 平年値は前7か年中、平成19年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 推定TDN収量=乾物茎葉重×0.582+乾物雌穂重×0.850。



## 5) 大豆

作 況 : 良

事 由 : 平年より1日遅い5月24日に播種を行った。出芽期は平年と同日であった。開花始は平年並であり、開花期以降の気温が平年より高く経過したため、開花、着莢は順調であり、着莢数は平年より多く推移した。成熟期は平年より2日遅かった。百粒重は平年をやや下回ったが、着莢数及び一莢内粒数は平年を大きく上回り、子実重は平年比110%であった。品質も平年をやや上回った。

以上のことから、今年の作況は「良」である。

調査項目		ユキホマレ		
		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.24	5.23	1
出芽期	(月.日)	6.8	6.8	0
開花始	(月.日)	7.18	7.19	△ 1
成熟期	(月.日)	9.26	9.24	2
主茎長(cm)	(6月20日)	12.3	9.1	3.2
	(7月20日)	50.2	48.1	2.1
	(8月20日)	62.5	62.0	0.5
	(9月20日)	62.8	61.3	1.5
	(成熟期)	62.8	61.3	1.5
本葉数(枚)	(6月20日)	0.8	0.7	0.1
	(7月20日)	6.9	6.8	0.1
主茎節数	(8月20日)	10.9	11.0	△ 0.1
	(9月20日)	11.2	10.9	0.3
	(成熟期)	11.2	10.9	0.3
分枝数(本/株)	(7月20日)	4.0	3.3	0.7
	(8月20日)	5.8	5.3	0.5
	(9月20日)	6.4	4.9	1.5
	(成熟期)	6.4	4.9	1.5
着莢数(個/株)	(8月20日)	89.4	68.8	20.6
	(9月20日)	87.7	70.2	17.5
	(成熟期)	87.7	70.2	17.5
一莢内粒数		2.11	1.78	0.33
子実重(kg/10a)		425	386	39
同上平年比 (%)		110	100	10
百粒重 (g)		33.4	35.4	△ 2.0
屑粒率 (%)		1.8	1.4	0.4
品質 (検査等級)		2上	2中	—

注1) 平年値は、前7か年中平成17年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

## 6) 小豆

作況：やや良

事由：平年より2日遅い5月24日に播種を行った。出芽期は平年と同日であった。開花始は「エリモシヨウズ」が平年並、「サホロシヨウズ」は平年より2日遅かった。開花期以降の気温が平年より高く経過したため、開花、着莢は順調に推移し、着莢数は平年を上回って推移した。成熟期は平年より「サホロシヨウズ」で3日、「エリモシヨウズ」で7日、それぞれ早かった。一莢内粒数は平年並、百粒重は平年を下回ったが、着莢数が平年を大きく上回ったため、子実重は「サホロシヨウズ」が平年比107%、「エリモシヨウズ」は同104%であった。品質は、「サホロシヨウズ」は平年より劣ったが、「エリモシヨウズ」は平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

調査項目	サホロシヨウズ			エリモシヨウズ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.24	5.22	2	5.24	5.22	2	
出芽期 (月.日)	6.10	6.10	0	6.11	6.11	0	
開花始 (月.日)	7.24	7.22	2	7.24	7.24	0	
成熟期 (月.日)	9.14	9.17	△ 3	9.19	9.26	△ 7	
主茎長(cm)	(6月20日)	4.9	3.2	1.7	4.9	3.4	1.5
	(7月20日)	21.3	17.9	3.4	19.6	17.5	2.1
	(8月20日)	82.4	64.6	17.8	63.0	65.6	△ 2.6
	(9月20日)	97.6	71.3	26.3	69.9	71.6	△ 1.7
本葉数(枚)	(6月20日)	0.3	0.4	△ 0.1	0.2	0.3	△ 0.1
	(7月20日)	5.6	6.1	△ 0.5	5.8	6.1	△ 0.3
主茎節数	(8月20日)	14.5	12.3	2.2	15.1	13.5	1.6
	(9月20日)	14.8	12.8	2.0	15.1	14.2	0.9
	(成熟期)	14.8	12.8	2.0	15.1	14.2	0.9
分枝数(本/株)	(7月20日)	1.9	2.2	△ 0.3	1.2	2.1	△ 0.9
	(8月20日)	5.2	5.0	0.2	4.7	4.7	0.0
	(9月20日)	4.3	4.3	0.0	3.9	4.2	△ 0.3
	(成熟期)	4.3	4.3	0.0	3.9	4.2	△ 0.3
着莢数(個/株)	(8月20日)	72.4	58.6	13.8	74.3	50.1	24.2
	(9月20日)	73.7	59.7	14.0	75.4	57.1	18.3
	(成熟期)	73.7	60.4	13.3	75.4	58.1	17.3
一莢内粒数	5.70	5.56	0.14	6.36	6.55	△ 0.19	
子実重(kg/10a)	434	404	30	471	453	18	
同上平年比 (%)	107	100	7	104	100	4	
百粒重 (g)	13.9	15.3	△ 1.4	13.4	14.9	△ 1.5	
屑粒率 (%)	3.6	2.3	1.3	0.9	2.8	△ 1.9	
品質 (検査等級)	4下	3下	—	3下	3下	—	

注1) 平年値は、前7か年中平成19年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

## 7) 菜豆

作 況 : 良

事 由 : 平年より2日遅い5月24日に播種を行った。出芽期は平年より1日遅かった。開花始は平年並であった。開花期以降、平均気温が高めに経過したため、開花、着莢は順調であり、着莢数は平年より多く推移した。成熟期は平年より3日早かった。百粒重は平年をやや下回ったが、一莢内粒数は平年よりやや多く、着莢数は平年を大きく上回ったため、子実重は平年比118%であった。品質は平年よりやや劣った。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目	大正金時			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.24	5.22	2	
出芽期 (月.日)	6.7	6.6	1	
開花始 (月.日)	7.8	7.7	1	
成熟期 (月.日)	8.30	9.2	△ 3	
草丈 (cm)	(6月20日)	10.6	9.6	1.0
	(7月20日)	46.1	37.9	8.2
	(8月20日)	50.1	41.3	8.8
	(9月20日)	50.3	42.9	7.4
	(成熟期)	50.3	42.9	7.4
本葉数(枚)	(6月20日)	0.7	0.6	0.1
	(7月20日)	3.3	3.3	0.0
主莖節数	(8月20日)	5.4	5.2	0.2
	(9月20日)	5.4	5.2	0.2
	(成熟期)	5.4	5.2	0.2
分枝数(本/株)	(7月20日)	3.6	4.2	△ 0.6
	(8月20日)	4.7	4.9	△ 0.2
	(9月20日)	4.3	4.2	0.1
	(成熟期)	4.3	4.2	0.1
着莢数(個/株)	(8月20日)	27.4	22.0	5.4
	(9月20日)	26.4	20.2	6.2
	(成熟期)	26.4	20.2	6.2
一莢内粒数	3.37	3.11	0.26	
子実重(kg/10a)	408	345	63	
同上平年比 (%)	118	100	18	
百粒重 (g)	67.8	73.4	△ 5.6	
屑粒率 (%)	3.2	5.0	△ 1.8	
品質 (検査等級)	4上	3中	—	

注1) 平年値は、前7か年中平成19年(最凶)、22年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

## 8) ばれいしょ

作 況 : やや良

事 由 : 植え付けは「男爵薯」、「コナフブキ」とも平年より3日遅い5月16日であり、植え付けの遅れを反映して萌芽期、開花始はやや遅かった。6月下旬以降は土壌が湿潤な状態が続き、やや高温に推移したことから両品種とも茎長は平年を上回り、「コナフブキ」では8月上旬から倒伏が見られた。枯ちよう期は、「男爵薯」は平年並で、「コナフブキ」は9月が高温多雨に経過したため枯ちようの進みが遅れたことから平年より8日遅かった。

両品種とも塊茎肥大は順調に進み上いも平均重は平年並であったが、「コナフブキ」が平年並の上いも数であったことから上いも重も平年並だったのに対し、「男爵薯」は上いも数が多かったことから上いも重は平年を上回った。でん粉価は、長期にわたり土壌が湿潤だったものの、7～9月の日照時間が多かったことから平年並かやや高く推移し、「コナフブキ」では平年よりやや高く、でん粉重もやや多かった。

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期 (月.日)	5.16	5.13	3	5.16	5.13	3	
萌芽期 (月.日)	6.5	6.3	2	6.8	6.6	2	
開花始 (月.日)	7.4	6.30	4	7.5	7.1	4	
枯ちよう期 (月.日)	8.30	8.31	△ 1	10.10	10.2	8	
茎長(cm)	(6月20日)	13.4	17.9	△ 4.5	13.7	18.4	△ 4.7
	(7月20日)	58	49	9	81	69	12
	(8月20日)	61	52	9	97	88	9
茎数(本/株)	(6月20日)	3.2	3.7	△ 0.5	2.6	3.1	△ 0.5
	(7月20日)	3.4	3.5	△ 0.1	3.1	3.1	0.0
	(8月20日)	3.4	3.4	0.0	3.0	3.1	△ 0.1
上いも重(kg/10a)	(8月20日)	4719	4215	504	3454	3243	211
	(9月20日)	—	—	—	4694	4665	29
でん粉価(%)	(8月20日)	15.4	14.9	0.5	20.4	19.9	0.5
	(9月20日)	—	—	—	21.5	20.9	0.6
でん粉重(kg/10a) (9月20日)	—	—	—	962	928	34	
上いも数(個/株)	10.3	9.3	1.0	9.6	9.9	△ 0.3	
上いも平均重(g)	105	102	3	116	111	5	
上いも重(kg/10a)	4786	4220	566	4958	4901	57	
同上平年比 (%)	113	100	13	101	100	1	
でん粉価(%)	14.5	14.5	0.0	22.0	21.2	0.8	
でん粉重(kg/10a)	—	—	—	1041	990	51	
同上平年比 (%)	—	—	—	105	100	5	

注) 平年値は前7か年中、平成16(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均

## 9) てんさい

作 況：平年並

事 由：移植栽培の播種は平年より2日遅い3月23日に行い、育苗中の生育は順調であった。移植は平年より2日早い5月6日に行い、活着は良好であった。しかし、5月中旬の低温および6月10日の降雹の影響を受け、6月20日の草丈、茎葉重は平年を下回った。7月以降の高温により草丈は急速に伸長し、7月20日の地上部生育は回復したが、8月上旬の高温少雨により茎葉の萎れが発生し、これ以降生葉数および茎葉重は平年を下回った。直播栽培では、播種は平年より2日早い5月6日に行った。降雹の被害がわずかであり、6月20日の草丈、生葉数、茎葉重は平年並で、7月以降は高温により徒長気味の生育となった。地下部の肥大は7月以降の高温により順調に進み、移植栽培、直播栽培とも、9月20日の根重は平年をかなり上回った。根中糖分は、7月以降の高温および8月中旬と9月上旬の多雨によって、9月20日には平年をかなり下回り、10月の好天によりやや回復したものの、収穫期には平年より1ポイント程度低かった。収穫は平年並の10月20日に行った。移植栽培の根重は、2品種平均で平年対比107%、根中糖分は94%、糖量は101%、直播栽培の根重は平年対比107%、根中糖分は94%、糖量は100%であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

表 その1

調査項目	移植						直播			
	モノホマレ			アーバント			モノホマレ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	3.23	3.21	2	3.23	3.21	2	5.6	5.8	△2	
移植期 (月.日)	5.6	5.8	△2	5.6	5.8	△2				
出芽期 (月.日)							5.20	5.19	1	
収穫期 (月.日)	10.20	10.19	1	10.20	10.19	1	10.20	10.19	1	
草丈(cm)	(5月20日)	4.4	4.5	△0.1	4.2	4.4	△0.2			
	(6月20日)	23.9	27.1	△3.2	23.8	26.8	△3.0	14.4	13.8	0.6
	(7月20日)	58.8	57.4	1.4	55.6	53.6	2.0	53.4	50.6	2.8
	(8月20日)	63.8	63.8	0.0	58.1	59.6	△1.5	74.6	63.1	11.5
	(9月20日)	62.6	66.1	△3.5	55.1	59.8	△4.7	76.5	66.2	10.3
生葉数(枚)	(5月20日)	4.4	4.0	0.4	3.8	3.8	0.0			
	(6月20日)	10.7	11.2	△0.5	10.5	10.6	△0.1	6.5	6.3	0.2
	(7月20日)	21.9	21.6	0.3	21.0	20.8	0.2	18.6	19.3	△0.7
	(8月20日)	25.0	27.0	△2.0	23.7	27.6	△3.9	26.3	26.1	0.2
	(9月20日)	27.6	30.4	△2.8	28.5	29.3	△0.8	26.7	27.4	△0.7
茎葉重 (g/個体)	(6月20日)	83	104	△21	80	101	△21	13	13	0
	(7月20日)	726	719	7	676	688	△12	505	501	4
	(8月20日)	817	939	△122	823	995	△172	1,157	905	252
	(9月20日)	754	951	△197	768	981	△213	1,159	916	243
根重 (g/個体)	(6月20日)	13	19	△6	15	19	△4	1	1	0
	(7月20日)	244	281	△37	278	287	△9	99	128	△29
	(8月20日)	69833	661	37	734	750	△16	529	475	54
	(9月20日)	1,061	906	155	1,092	974	118	863	756	107
根周 (cm)	(7月20日)	21.1	21.9	△0.8	22.9	23.1	△0.2	16.4	17.2	△0.8
	(8月20日)	30.5	29.9	0.6	32.1	32.4	△0.3	28.0	26.6	1.4
	(9月20日)	35.9	33.6	2.3	38.4	35.9	2.5	35.8	31.3	4.5
根中糖分 (%)	(9月20日)	12.88	15.03	△2.15	12.95	15.34	△2.39	12.08	14.97	△2.89

表 その2

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎葉重 (kg/10a) (収穫期)	3,867	5,897	△2,030	4,742	5,990	△1,248	6,963	5,594	1,369
根重 (kg/10a) (収穫期)	7,353	6,843	510	7,659	7,164	495	6,129	5,740	389
同上平年比(%)	107	100	7	107	100	7	107	100	7
根中糖分(%)	16.44	17.52	△1.08	17.02	17.90	△0.88	16.46	17.54	△1.08
同上平年比(%)	94	100	△6	95	100	△5	94	100	△6
糖量 (kg/10a)	1,208	1,199	9	1,304	1,294	10	1,008	1,005	3
同上平年比(%)	101	100	1	101	100	1	100	100	0

注) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

5月の草丈および生葉数は、平成22年から調査したため、平年値は22年の値である。

## 10) 牧草(チモシー)

作況:良

事由:萌芽期は4月23日と平年より1日遅かったが、冬損程度は平年並であった。

1番草の出穂始は平年より1日遅い6月16日で、出穂期は平年並の6月20日であった。6月上～中旬の降水量が多かったことから、乾物率は低かったものの、生草収量は平年を上回り、乾物収量は平年対比113%と多かった。

2番草は、7月下旬の降水量が少なく一時的に生育の停滞が認められたものの、草丈と節間伸長程度はいずれも平年並であり、乾物収量は平年対比105%とやや多かった。

3番草は、生育期間である8月中旬以降の気温が高く、降水量も多かったため、草丈は平年を下回ったが、乾物収量は平年対比106%とやや多かった。年間合計乾物収量は平年対比110%と平年を上回った。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

表 その1

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
萌芽期	(月.日)	4.23	4.22	1
冬損程度		1.0	1.7	△0.7
被度(%)	(5月18日)	100	100	0
	2番草再生時	100	100	0
出穂始	(月.日)	6.16	6.15	1
出穂期	(月.日)	6.20	6.20	0
出穂程度	1番草	8.0	5.4	2.6
節間伸長程度	2番草	3.3	3.3	0.0
刈取日(月.日)	1番草	6.23	6.21	2
	2番草	8.12	8.10	2
	3番草	10.6	10.4	2
倒伏程度	1番草	7.8	1.5	6.3
病害罹病程度	1番草	2.0	1.9	0.1
	2番草	3.5	3.3	0.2
	3番草	4.0	4.1	△0.1
草丈(cm)	(5月18日)	30	33	△3
	(6月5日)	73	69	4
	1番草	115	104	11
	2番草再生時	40	37	3
	2番草	65	61	4
	3番草再生時	41	46	△5
	3番草	42	48	△6
生草収量(kg/10a)	1番草	3986	2677	1309
	2番草	706	848	△142
	3番草	799	508	291
	合計	5490	4033	1457
乾物率(%)	1番草	17.5	23.3	△5.8
	2番草	27.3	22.0	5.3
	3番草	21.0	31.4	△10.4

表 その2

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
乾物収量(kg/10a)	1番草	696	615	81
	同上平年比(%)	113	100	13
	2番草	193	183	10
	同上平年比(%)	105	100	5
	3番草	168	159	9
	同上平年比(%)	106	100	6
	合計	1056	957	99
	同上平年比(%)	110	100	10

注1) 平年値は前7か年中、平成16年(最豊)、平成21年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 冬損程度は1:無または微~9:甚。出穂程度および節間伸長程度は、1:無~9:極多。倒伏程度および病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。



## 11) たまねぎ

作 況：やや不良

事 由：播種は、早生種「改良オホーツク1号」では平年より3日早い3月3日、晩生種「スーパー北もみじ」では平年より2日早い3月9日に行った。育苗期間中は、4月上旬の平均気温は極めて高く、中旬以降は平年並みから低温に推移したものの、苗の生育は概ね順調であった。移植は、「改良オホーツク1号」は平年より4日遅い5月12日、「スーパー北もみじ」は平年並みの5月12日に行った。移植時の苗質は、両品種ともほぼ平年並であった。5月下旬から6月中旬の平均気温はやや低かったものの、降水量はやや多く、日照時間は平年並であり、両品種とも移植後の生育は概ね順調であった。6月10日に降雹が観測されたものの、被害は極めて軽微であった。6月下旬以降も生育は概ね順調であり、球肥大期は、「改良オホーツク1号」で平年より2日遅い7月10日、「スーパー北もみじ」で平年より3日早い7月19日であった。7月下旬～8月中旬の気温は平年に比べてやや高く推移し、試験ほ場全体に地上部の葉先枯れ症状が認められた。早生種「改良オホーツク1号」の倒伏期は平年より4日早い7月31日で、一球重は平年を上回ったものの、晩生種「スーパー北もみじ」の倒伏期は平年より10日早い8月5日で、一球重は平年を下回った。「スーパー北もみじ」では、その後の枯葉の進みも速かったことから、球肥大は劣り、平均一球重は平年を大きく下回った。規格内収量は、「改良オホーツク1号」では平年を18%上回り、「スーパー北もみじ」は平年を24%下回った。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	3.3	3.6	△ 3	3.9	3.11	△ 2	
出芽期 (月.日)	3.15	3.19	△ 4	3.20	3.24	△ 4	
移植期 (月.日)	5.12	5.8	4	5.12	5.12	0	
球肥大期 (月.日)	7.10	7.8	2	7.19	7.22	△ 3	
倒伏期 (月.日)	7.31	8.4	△ 4	8.5	8.15	△ 10	
枯葉期 (月.日)	8.15	8.25	△ 10	8.22	9.11	△ 20	
収穫期 (月.日)	8.29	9.4	△ 6	9.7	9.17	△ 10	
草丈(cm)	移植時	28.9	25.5	3.4	23.2	24.6	△ 1.4
	(6月20日)	46.3	42.9	3.4	33.6	33.6	0
	(7月20日)	80.6	75.1	5.5	78.7	80.0	△ 1.3
生葉数(枚)	移植時	3.2	3.2	0	3.3	3.2	0.1
	(6月20日)	6.0	6.1	△ 0.1	5.6	5.8	△ 0.2
	(7月20日)	9.2	9.2	0	9.5	10.4	△ 0.9
葉鞘径(mm)	移植時	4.1	4.1	0	4.2	4.0	0.2
	(6月20日)	10.1	10.6	△ 0.5	8.2	8.7	△ 0.5
	(7月20日)	22.4	19.7	2.7	19.8	21.4	△ 1.6
葉身生重(g)	(7月20日)	153.8	115.2	38.6	115.8	129.5	△ 13.7
球生重(g)	(7月20日)	122.5	98.2	24.3	46.2	50.0	△ 3.8
	(8月20日)	279.3	256.0	23.3	211.9	248.7	△ 36.8
総収量(kg/10a)		7889	7293	596	5422	7865	△ 2443
規格内収量(kg/10a)		7317	6227	1090	5110	6699	△ 1589
同上平年比 (%)		118	100	18	76	100	△ 24
規格内率 (%)		93	87	6	94	84	10
平均一球重(g)		258	247	11	183	268	△ 85

注) 平年値は前8か年中、平成17年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとしたもの)、22年(最凶)を除く5か年の平均。